

2018 6/26

No.2069

毎月第2・第4火曜日発行

# 政経 かながわ

一般社団法人  
— 神奈川政経懇話会 —



箱根登山電車の線路沿いに咲くアジサイのライトアップが14日、報道陣に公開された。座席指定の特別電車は16日に運行をスタート。幻想的に浮かび上がるアジサイが乗客を迎える。



## contents

視点・点描	3
子どもの見守り考えよう	
まつりごと点描	4
拉致解決待ったなし 真価問われる安倍外交	
文化	6
1980年代が再びブームに スパルバークの映画から	
企業最前線	8
すそ野広がるハラルビジネス 物流、家電企業なども認証取得	
くらし2018	10
納得できる賃金に	
アジアの風	12
イラク戦争に学んだ北朝鮮	
NNAアジア経済レポート	13
神奈川景気データファイル	14
神奈川景気データファイル	15

### 事務局だより

◇2018年7月定例講演会  
2018年7月18日(水)  
午後1時30分～3時  
ロイヤルホールヨコハマ5階  
「リビエラの間」  
講師は皇室ジャーナリストの  
山下晋司さん  
演題は「天皇陛下のお気持ち  
～退位が及ぼす影響」



# 視点 点描



## 子どもの見守り考えよう

新入学から2カ月がたった。入学当初は不安そうな表情で通学路を歩いていた近所の小学1年生も、友達と楽しそうに歩く姿を見かけるようになった。

記者も小学4年生の娘がいるが、通学路の安全には本当に気を遣う。交通、防犯と両面だ。昨年3月に千葉県松戸市の小学3年生の女兒が殺害され、保護者会の元

会長が逮捕されたのはショックだった。さらに先月も新潟市の小学2年生女兒が下校途中に行方不明になり、遺体で見つかった。自宅まであと少し。そんな短い距離でも悲しい出来事が起きてしまう。こうした事件が報道されるたび、不安な気持ちになる。家から徒歩5分の習い事先にも、娘の行き帰り、付き添っているほどだ。

記者が住む地域では町内会がこんな掲示をしている。「家の外除は朝の通学時間帯に行い、子どもたちを見守りましょう。ご協力をお願いします」。なるほど、こんな工夫もあるのか、と初めて目にした時に思った。最近は登校時間帯に合わせて、子どもと一緒に出勤するお父さんの姿もよく見かける。友達のお父さんの姿が通学路にあるだけで、なんだかほっとさせられる。

5月23日の本紙にこんな記事が載った。「求む！ 交通整理員」。なり手不足…事故現場の通学路でも 南足柄、事業所も協力」。小学生の登下校の安全に目を配る「交通整理員」が南足柄市では不足しており、交通事故が発生した通学路の横断歩道でも交通整理員の不在という状況が続いていた。このエリアの交通整理員を足柄市が募集したものの、応募はゼロ。

同市の担当者によると、ほぼ毎日、雨が降っても朝夕立ち続けないうけないことに、ためらいがあるのでは、という。

そこで助け船を出したのが、近くの総合建設会社。児童だけの横断を心配し、有志が交代で見守り活動に取り組んでいる。子どもたちから大きな声であいさつされると、仕事前に元気をもらおうという。黄色い「横断中」の旗を持って横断歩道で児童を見守る、社員の写真も掲載している。企業の地域貢献も、多額なお金をかけなくても、こうした形があるのか、と新鮮だった。

子どもの見守りに対する、地域のニーズは高い。そして近年、ますます高くなっている。家庭、学校、地域それぞれで何ができるか、考えてみてはいかがだろうか。

(神奈川新聞社編集総務部長

秋山 理砂)